

健やか親子なは 2015
(那覇市母子保健計画)
中間評価報告書



令和2年3月

那覇市

1. 経緯、実施体制

近年、少子高齢化や核家族化の進行、地域のつながりが希薄化していることなど、親子を取り巻く環境が大きく変化している中、安心して親子が暮らせる環境づくりが求められています。母子保健は、生涯を通じた健康づくりの出発点であり、国は、21世紀の母子保健の主要な取組を提示したビジョンである「健やか親子21（第2次）」、沖縄県は「健やか親子おきなわ21（第2次）」を策定しています。

那覇市でも、平成11年度に「母子保健計画ほほえみプランなは」、平成16年度に「健やか親子なは」、さらに平成26年度に、平成27年度から令和6年度までの母子保健計画として、「健やか親子なは2015（那覇市母子保健計画）」（以下「健やか親子なは2015」という。）を策定しました。

令和元年度は、健やか親子なは2015の計画期間の中間年度にあたり、策定した際と同様に、学識経験者、小児科医、産婦人科医、歯科医、母子保健推進員、NPO団体から構成される那覇市母子保健推進協議会で指標の分析、評価を行い、今後の取組の方向性を検討しました。

2. 基本理念と基本目標

健やか親子なは2015では、「すべての親と子が地域の中でともにいきいきと健やかな生活ができる」を基本理念として、これを達成するための4つの基本目標と20の具体的な目標、28の評価指標を設定し、評価指標ごとに中間目標値（令和元年度）及び最終目標値（令和6年度）を掲げています。

基本理念

すべての親と子が地域の中でともにいきいきと
健やかな生活ができる

【基本目標1】安心、安全な妊娠・出産・育児ができる

4項目の評価指標

【基本目標2】乳幼児期から規則正しい生活習慣を身につけ、親も子も健やかに成長し、笑顔で生活できる

16項目の評価指標

【基本目標3】地域に守られながら、子ども自らこころとからだの健康を考え行動できる力がつく

5項目の評価指標

【基本目標4】親が心にゆとりを持ち子育てできる

3項目の評価指標

3. 評価方法

評価については、国の策定した健やか親子21最終評価報告書を参考に、設定した数値目標に対する達成状況を検証しました。

健やか親子なは2015は、直近の指標が、策定時、中間年、最終年目標に対してどのような動きになっているか（指標の達成状況）、施策や取組とデータの変化についての分析及び評価を行い、課題について検討しました。

直近値が出ている指標について、A、B、C、D、Eで評価を行いました。

- A：数値が改善し、中間目標値に達している
- B：数値は改善しているが、中間目標値には達していない
- C：ほぼ変化無し
- D：数値が悪化している
- E：評価できない

計画の策定時（以下「策定時」という。）において、社会情勢等に応じた適切な計画となるよう中間年において、評価及びその見直しを行うこととされており、必要と判断された目標・指標については、見直しを行いました。

4. 中間評価の結果

(1) 指標の全体状況

表1：指標の達成状況

	達成状況	基本目標 1～4の 合計	基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標 4
			安心、安全な 妊娠・出産・ 育児ができる	乳幼児期から 規則正しい生 活習慣を身に つけ、親も子 も健やかに成 長し、笑顔で 生活できる	地域に守られ ながら、こど も自らこころ とからだの健 康を考え行動 できる力がつ く	親が心にゆ とりを持ち 子育てでき る
	指標項目数	28 (100%)	4	16	5	3
A	数値が改善し、 中間目標値に達し ている指標	12 (42.9%)	0	12	0	0
B	数値は改善してい るが、中間目標値 には達していない	4 (14.3%)	1	2	1	0
C	ほぼ変化無し	2 (7.1%)	0	2	0	0
D	数値が悪化してい る	2 (7.1%)	1	0	0	1
E	評価できない	8 (28.6%)	2	0	4	2

(2) 基本目標別の指標の評価

ア 基本目標1 安心、安全な妊娠・出産・育児ができる

①妊娠・出産について満足している者の割合

策定時には、乳幼児健診会場でアンケート調査を実施しましたが、中間評価時にアンケート調査を実施できず、具体的に数値を把握する方法を確立できませんでした。国の「健やか親子21」の最終評価では、妊娠・出産について満足度の低い項目として「産後1カ月の助産師や保健師等からの指導・ケア」があり、産後の支援としては重要であるとの指摘から「産後、退院してからの1カ月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアを十分に受けることができた」と答えた割合を「健やか親子21（第2次）」の指標にしています。

国の乳幼児健診の必須問診項目として追加され、平成27年度から乳児健診前期で継年的にみれる指標のため、「妊娠・出産について満足している者の割合」を「産後、退院してからの1カ月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアを十分に受けることができた」と答えた割合に変更します。その数値は、平成27年度は74.4%で、直近の平成30年度は82.2%と7.8ポイント上昇しています。産後のきめ細やかな関わりは、保護者の育児に前向きに取り組む力を高め、育児不安や産後うつ、虐待予防につながることから、那覇市では、従来の保健師訪問、助産師訪問の他に、平成30年度に妊娠・出産・育児について気軽に相談できる子育て世代包括支援センター「ら・ら・らステーション」を開設し、同年、母親の心身のケアや育児のサポートを行う産後ケア事業を実施しました。平成31年度には産科医療機関、沖縄県の協力の元、産婦健診を開始しました。今後はこれらの事業の周知と、保護者が前向きに育児に取り組めるよう、各事業が円滑に展開していける方策について検討していく必要があります。

②全出生数中の低出生体重児の割合

③妊娠中の妊婦の喫煙率

全出生数中の低出生体重児の割合は、策定時の値より、直近値は悪化しています。那覇市は沖縄県平均より低い状況で推移していますが、全国平均より高い状況が続いています。

沖縄県の分析では、低出生体重児の出生に影響を与える因子として、「37週未満の出生」、「妊娠後期の高血圧」、「非妊娠時のBMIが18.5未満」、「妊婦の身長が150cm未満」、「妊婦の喫煙」が挙げられています¹⁾。また、歯周病は、早産・低出生体重児出産のリスク因子となることが示唆されており、那覇市では、妊婦及び生まれてくる子の歯科保健向上を目的に令和元年度から妊婦歯科健診を実施しています。より多くの妊婦が健診を受けられるよう周知が必要です。

那覇市の妊婦の喫煙率は、策定時の値より、直近値は改善していますが、中間目標値に達していません。沖縄県の分析では、授乳終了後に家族に喫煙者がいると再喫煙するとのデータが示されています²⁾。

那覇市では、11週以内の妊娠の届出が全国平均より低くなっており、妊婦が適切な健康管理をできるよう早めに親子健康手帳（母子健康手帳）を取得し、妊婦健診を定期的に受けるよう、今後も継続した周知が必要です。

親子健康手帳交付窓口等で非妊娠時のBMIが18.5未満や喫煙、高血圧の妊婦に保健指導を実施していますが、数値を改善するには一層の取り組みの推進と新たな方策について検討していく必要があります。

1) 「低出生体重児の要因分析と保健指導」報告書 H29.3 月 沖縄県健康長寿課

2) 平成 28 年度乳幼児健康診査実績報告会資料

④マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合

策定時には、乳幼児健診会場でアンケート調査を実施していますが、国の「健やか親子 21（第2次）の中間評価に向けた乳幼児健康診査における調査について（依頼）」（H29.11.30 付け厚生労働省子ども家庭局母子保健課）にて、「マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合」について、乳幼児健康診査において調査するよう依頼があり（中間・最終評価の各前年度）、平成 30 年度から乳幼児健診の必須問診項目に追加しています。そのため、今後は乳幼児健康診査報告書で数値を把握していきます。

マタニティマークは、国が妊産婦の健康を守るため、妊娠・出産の安全性と快適さの確保を目指して作成しています。策定時のアンケート調査では、93.9%の乳児の保護者がマタニティマークを知っていると答えており、そのうち 50.5%がマタニティマークを妊娠中に身につけるなどして使用したと答えています。調査方法は異なりますが、平成 30 年度的那覇市の乳児健診問診票では、91.9%の乳児の保護者がマタニティマークを知っていると答えており、そのうち 62.7%がマタニティマークを妊娠中に身につけるなどして使用したと答えています。那覇市の親子健康手帳（母子健康手帳）には、マタニティマークの説明が載っており、親子健康手帳交付時にステッカーを配布して周知啓発しています。最終評価に向けて、数値の把握とマタニティマークの周知を引き続き行っていきます。

指標の見直しと新しい指標

・「妊娠・出産について満足している者の割合」を「産後、退院してからの1カ月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアを十分に受けることができたと答えた者の割合」に変更

・「マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合」については、把握方法を乳幼児健診（健やか親子なは）アンケートから乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）に変更

(%)

指標 (★：重点指標)		策定時	H27 年度 2015	H28 年度 2016	H29 年度 2017	H30 年度 2018	中間 目標値 2019	評 価	最 終 目 標 値 2024	把握方法	
【健康水準の指標】	(中間評価で変更) ①妊娠・出産について満足している者の割合	95.1 (H26年度)	—	—	—	—	増加	E	—	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート	
	(中間評価で変更) ①産後、退院してからの1カ月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアを十分に受けることができたと答えた者の割合	—	—	—	—	82.2	—	—	増加	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)乳児健診前期	
	★②全出生数に占める低出生体重児の割合	10.0 (H25年)	9.7	11.2	10.8	10.8	減少	D	減少	人口動態統計	
【健康行動の指標】	★③妊娠中の妊婦の喫煙率	4.6 (H25年度)	2.7	3.6	2.7	3.3	0.0	B	0.0	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)	
	(中間評価で変更) ④マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合	乳児 50.5 (H26年度)	—	—	—	—	増加	E	—	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート	
	(中間評価で変更) ④マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合	—	—	—	—	62.7	—	—	増加	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)乳児健診前期後期	
【参考とする指標】	周産期死亡率(出産千対)	5.1 (H25年)	3.9	4.7	3.9	5.1	—	—	—	人口動態統計	
	新生児死亡率、乳児(1歳未満)死亡率(出生千対)	新生児	0.6 (H25年)	0.6	0.6	2.3	1.4	—	—	—	人口動態統計
		乳児	1.1 (H25年)	1.8	2.5	3.6	1.7				

A: 数値が改善し、中間目標値に達している指標、B: 数値は改善しているが、中間目標値に達していない、C: ほぼ変化無し、D: 数値が悪化している、E: 評価できない

(%)

指標 (★：重点指標)	策定時	H27	H28	H29	H30	中間 目標値 2019	評 価	最 終 年 目 標 値 2024	把握方法	
		年度 2015	年度 2016	年度 2017	年度 2018					
【参考とする指標】	妊娠 11 週以下で妊娠の届出率	88.1 (H25 年度)	89.6	89.6	89.2	88.5	—	—	—	地域保健・健康増進事業報告
	妊娠中の夫の喫煙率	41.3 (H25 年度)	38.1	40.0	38.2	36.2	—	—	—	乳幼児健康診査報告書 (沖縄県小児保健協会)
	妊娠中の妊婦の飲酒率	H27 年度から乳児健診の間診追加項目として集計	2.1	1.8	1.7	1.5	—	—	—	乳幼児健康診査報告書 (沖縄県小児保健協会)
	(中間評価で変更) 質問票*(EPDS等)を活用する産科医療機関の数	今後調査	—	—	—	12ヶ所	—	—	—	産科向けアンケート
	(中間評価で変更) 質問票*(EPDS等)を活用する産科医療機関の数	今後調査	—	—	—	12ヶ所	—	—	—	産婦健診を実施している医療機関

A: 数値が改善し、中間目標値に達している指標、B: 数値は改善しているが、中間目標値に達していない、C: ほぼ変化無し、D: 数値が悪化している、E: 評価できない

*産後うつ質問票（EPDS）を活用する医療機関については、平成 31 年度から産婦健診を実施しているため、把握方法を産科向けアンケートから、産婦健診を実施している医療機関とする。（産婦健診はEPDS 必須のため）

イ 基本目標 2 乳幼児期から規則正しい生活習慣を身につけ、親も子ども健やかに成長し、笑顔で生活できる

①むし歯のない 3 歳児の割合

策定時の値より、年々数値は改善しており、直近値は中間目標値に達しています。那覇市のむし歯のない 3 歳児の割合は年々向上してきており、沖縄県平均より高い状況ですが、全国平均と比較するとかなり悪い状況が続いています。

3 歳児のむし歯につながる要因として、「第 2 子以降」、「親が仕上げ磨きを毎日していない」、「おやつ時間を決めていない」等があると指摘されています³⁾。那覇市の分析では、「仕上げ磨きをする」、「食事やおやつ時間が決まっている」、「定期的にフッ化物を塗布している」場合には、むし歯有病者率が低くなっていました。

那覇市では従来から、歯・口腔の健康について相談できる乳幼児健診を実施しており、目標値達成に向けて、令和元年度より妊婦歯科健診、2 歳児歯科健診を再開しています。妊娠中から生まれてくる子どもへと歯の健康づくりが繋がっていくよう、今後も歯・口腔の健康づくりを継続し、更なる効果的なむし歯予防について検討していく必要があります。

3) 沖縄県における 3 歳児のむし歯の有病者率とその要因～沖縄県乳幼児健康診査システムの解析 比嘉千賀子他

② ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合

策定時の値より、直近値は中間目標値に達しています。ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合は、子どもの年齢が高くなるにつれて低下しており、那覇市は沖縄県平均と比べて低い傾向にあります。保護者の落ち着いた気持ちが、子どもの発達にも大きく影響を与えます。保護者が過労や経済的困窮があったり、育児不安や子育てのしにくさを感じていると、ゆったりした気分で子どもと過ごせる余裕がなくなります。気軽に相談できる場や、交流する場、育児サービスの提供を今後も行っていく必要があります。

③ 乳幼児健康診査の受診率

乳児健診受診率は、全国及び沖縄県平均より高い状況ですが、策定時の値と比べ、中間目標値に達していません。近年は90%前半で留まっています。1歳6か月児健診、3歳児健診は、ともに受診率が改善し、直近値は中間目標値に達していますが、依然として沖縄県や全国値より低い状況が続いています。

健診は、子どもの健康状態の把握や保健相談、栄養相談、歯科相談等の場として活用されており、母子保健活動の根幹となるものです。また、乳幼児健診の未受診世帯の中には、背景に養育支援を要するケースや虐待のリスクがあると言われてしています。那覇市では、受診勧奨のための再通知や未受診世帯の訪問、また、保育施設との連携を実施し、さらに、平成29年度から3年間、「沖縄県子どもの貧困対策推進交付金」を活用し、3歳児健診の未受診者を対象に休日健診を実施しました。平成29年度は、その成果もあり、受診率が中間目標値である85%を超え、沖縄県平均に近づいています。今後も受診しやすい環境を整えていくことと未受診者の健康状態を把握していく必要があります。

④ 「車に乗る時はチャイルドシートを使用している」と答えた人の割合

策定時の値と比べ、ほぼ変化がありません。3歳児のチャイルドシート使用率は、他の月齢と比べて低くなっています。事故予防のため、チャイルドシート使用についての啓発や貸し出しできる機関の情報提供を行う必要があります。

⑤ 3歳児健診で21時台までに寝る子の割合

策定時の値より向上していますが、直近値は中間目標値には達していません。

沖縄県は、夜遅くまで開いている店舗も多く、親子連れもみられ、夜型社会と言われており、子どもの生活習慣にも影響を及ぼしています。

人間の身体には、体内時計と呼ばれる機能が備わっており、食事や睡眠などの行動パターンで神経や内臓が働くように調整しています。不規則な生活は体内時計のリズムの乱れを引き起し、疲れがとれない、よく眠れないなどの身体の不調につながることもあります。引き続き、体や脳の成長・発達に不可欠な生活リズムの重要性を伝える必要があります。

⑥ 3歳児健診で「食事やおやつの時間が決まっている」と答えた人の割合

策定時の値と比べ、ほぼ変化がありません。決まった時間に食事やおやつをとることは、体や脳の成長・発達に不可欠な体内時計の機能をバランスよく保ち、生活リズムをつくること、むし歯予防からも重要です。引き続き、これらの重要性を伝える事と新たな方策を

検討していく必要があります。

⑦～⑩ 予防接種率

予防接種率は、策定時の値と比べ、数値は改善しています。保健師や助産師による訪問、乳幼児健診等での接種勧奨と未接種者への再通知の回数を増やしています。最終目標値に向け、予防接種率を向上させるために、引き続き、接種率を高める施策の検討が必要です。

BCGについては、平成25年度から標準的な接種期間が生後5か月～生後8か月未満で、1歳未満まで接種できるため、表記を「BCG（3か月～6か月未満）」から「BCG（1歳未満）」に変更します。

水痘の予防接種については、接種対象が3歳未満となっており、1歳6か月児健診では2回接種又は未接種の幼児もいることから、1歳6か月児健診で水痘を「1回接種終了している者の割合」を「1回以上接種している者の割合」に変更します。

麻疹・風疹（MR2期）の接種率については、麻疹・風疹（MR1期）と比べて接種率が低い状況もあり、今後は参考指標として数値を把握していきます。

指標の見直しと新しい指標

- ・「BCG（3か月～6か月未満）の接種率」を「BCG（1歳未満）の接種率」に変更
- ・「1.6健診で水痘を1回接種終了している者の割合」を「1歳6か月児健診で水痘の予防接種を1回以上接種している者の割合」に変更
- ・参考指標に「麻疹・風疹（MR2期）の接種率」を追加

(%)

指標 (★：重点指標)		策定時	H27 年 度 2015	H28 年度 2016	H29 年度 2017	H30 年度 2018	中間 目標値 2019	評 価	最 終 年 目 標 値 2024	把握 方法		
【健康水準の指標】	★①むし歯のない3歳児の割合	69.4 (H25年度)	71.9	71.8	75.5	78.8	75.7	A	82	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)		
	②ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	乳児	77.3 (H26年度)	89.2	89.4	89.3	89.3	増加	A	増加	乳幼児健康診(健やか親子なは)アンケートまたは乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)	
		1歳半児	75.3 (H26年度)	79.2	81.2	81.8	81.9					
		3歳児	73.6 (H26年度)	73.2	74.2	74.1	75.1					
【健康行動の指標】	★③乳幼児健康診査の受診率	乳児	90.1 (H25年度)	91.9	92.6	91.5	90.4	B	95.0	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)		
		1歳半児	83.8 (H25年度)	85.9	87.8	87.8	89.0				87.0	90.0
		3歳児	79.5 (H25年度)	81.2	83.5	86.9	87.2				85.0	90.0
	④「車に乗る時はチャイルドシートを使用している」と答えた人の割合	乳児	96.6 (H25年度)	96.8	96.2	96.6	96.3	100	C	100	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)	
		1歳半児	95.7 (H25年度)	95.4	95.1	95.2	95.8					
		3歳児	85.2 (H25年度)	86.7	85.8	83.8	86.8					
⑤3歳児健診で21時台までに寝る子の割合	58.1 (H25年度)	61.3	64.3	62.6	62.5	80	B	90	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)			
⑥3歳児健診で「食事やおやつ時間は決まっている」と答えた人の割合	84.8 (H25年度)	85.3	83.8	84.2	84.8	増加	C	増加	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)			

A: 数値が改善し、中間目標値に達している指標、B: 数値は改善しているが、中間目標値に達していない、C: ほぼ変化無し、D: 数値が悪化している、E: 評価できない

(%)

指標 (★：重点指標)	策定時	H27 年 度 2015	H28 年度 2016	H29 年度 2017	H30 年度 2018	中間 目標値 2019	評 価	最終年 目標値 2024	把握方 法		
【健康行動の指標】	★⑦四種混合(3カ月～7歳6カ月未満)	75.8 (H25年度)	98.7	94.3	90.9	95.2	増加	A	95	【策定時】 那覇市市政概要	
	★⑧麻疹・風疹(MR)1期(1歳～2歳未満)	96.1 (H25年度)	93.8	95.4	95.2	97.4	増加	A	95	那覇市市政概要	
	(中間評価で変更) ★⑨BCG(3カ月～6カ月未満)	83.1 (H25年度)	97.8	96.7	85.4	87.2	増加	A	95	那覇市市政概要	
			*中間評価より BCG(1歳未満)に変更								
	★⑩ヒブ(2カ月～5歳未満)接種しているものの割合	70.9 (H25年度)	93.4	89.2	94.7	95.6	増加	A	95	那覇市市政概要	
	★⑪小児用肺炎球菌(2カ月～5歳未満)	75.8 (H25年度)	93.4	89.2	94.8	95.7	増加	A	95	那覇市市政概要	
	★⑫3歳児健診で日本脳炎2回接種を終了している者の割合	45.1 (H25年度)	55.6	57.7	58.4	61.8	増加	A	95	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)	
	★⑬1歳6か月児健診でB型肝炎3回接種している者の割合	10.0 (H25年度)	27.7	36.1	54.7	90.0	増加	A	95	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)	
	★⑭1歳6か月児健診でロタ(1価)2回接種、ロタ(5価)3回接種を終了している者の割合	1価	7.9 (H25年度)	23.8	29.0	34.8	36.8	増加	A	95	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
		5価	0.6	6.9	11.5	9.5	10.0				
(中間評価で変更) ★⑮1歳6か月児健診で水痘を1回接種終了している者の割合	28.5 (H25年度) ※1回以上の割合：36.6	81.6	85.5	87.1	90.3	増加	A	95	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)		
		H26(2014) 10月から定期接種化 *中間評価より「1回以上接種している者の割合」に変更									
★⑯1歳6か月児健診で流行性耳下腺炎を1回接種終了している者の割合	31.6 (H25年度)	42.2	46.7	49.0	55.1	増加	A	95	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)		
【参考とする指標】	(中間評価で追加) 麻疹・風疹(MR)2期(小学校就学前の1年間)	—	93.7	89.1	89.6	95.3	—	—	—	那覇市市政概要	
		参考 80.3 (H25年度)									

A: 数値が改善し、中間目標値に達している指標、B: 数値は改善しているが、中間目標値に達していない、
C: ほぼ変化無し、D: 数値が悪化している、E: 評価できない

(%)

指標 (★：重点指標)			策定時	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	中間 目標値 2019	評価	最終 年目標 2024	把握方 法	
				2015	2016	2017	2018					
【参考とする指標】	育児中の父母の喫煙率	父親	乳児	40.5 (H25年度)	37.7	39.0	36.9	36.5	—	—	—	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
			1歳半児	39.8 (H25年度)	38.1	37.3	37.3	35.2				
			3歳児	37.4 (H25年度)	36.0	36.2	35.6	34.2				
		母親	乳児	6.6 (H25年度)	4.8	4.9	5.0	5.3				
			1歳半児	7.0 (H25年度)	6.9	6.4	5.7	6.7				
			3歳児	7.8 (H25年度)	6.8	7.8	7.0	7.5				
	育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	乳児	H27年度から乳児健診の間診追加項目として集計	80.0 [全体：81.5]	85.1	83.5	83.1	—	—	—	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)	
		1歳半児		81.0	86.5	85.6	85.8					
		3歳児		83.4	86.5	85.6	85.7					
子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合	乳児	H27年度から乳児健診の間診追加項目として集計	89.7	91.6	92.3	93.6	—	—	—	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)		
	1歳半児		97.7	97.7	97.5	97.1						
	3歳児		88.4	88.5	88.1	87.2						
乳児の貧血 血色 11.0g/dl未満	10.0未満	3.2 (H25年度)	3.1	3.8	3.9	3.4	—	—	—	【策定時】 乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)		
	10.0～11.0	22.1 (H25年度)	17.9	17.2	13.7	15.1						
	合計	25.3 (H25年度)	21.0	21.0	17.6	18.6						
この地域で子育てしたいと思う親の割合	乳児	76.2 [全体：75.1] (H26年度)	93.2	93.4	93.2	93.5	—	—	—	【策定時】 乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート		
	1歳半児	72.5 (H26年度)	94.8	94.1	94.1	94.5						
	3歳児	76.3 (H26年度)	94.5	93.6	96.0	94.4						

A: 数値が改善し、中間目標値に達している指標、B: 数値は改善しているが、中間目標値に達していない、
C: ほぼ変化無し、D: 数値が悪化している、E: 評価できない

ウ 基本目標3 地域に守られながら、子ども自らこころとからだの健康を考え行動できる力がつく

①10代の人工妊娠中絶率(15～19歳女子の人口千対)

④避妊方法・性感染症について学習したことがある者の割合

10代の人工妊娠中絶率は、衛生行政報告例では、市町村ごとの数値を出していないため、那覇市の数値が把握できず、他に把握する方法を確立できませんでした。指標について、引き続き最終評価に備えて検討していきます。

避妊方法・性感染症について学習したことがある者の割合は、策定時には、アンケート調査を実施していますが、中間評価時にアンケート調査を実施しておりません。指標については、中学校、高校に思春期教室を実施しているため、「中学校、高校での思春期教室(避妊、性感染症の予防)の受講人数」に変更し、最終評価時に評価、分析を行います。

10代の予期しない妊娠を防ぎ、子どもを産みたいときに産めるよう、那覇市では、中学校や高校での思春期教室の実施、思春期連携会議においての関係機関との検討、性に関する悩みが生じた際、匿名で相談できる「思春期相談先」の周知を行っています。引き続き、これらのことを実施していきます。

思春期相談先：沖縄県女性健康支援センター、那覇市保健所 地域保健課、
なは女性センター「ダイヤルうない」(性の多様性に関する相談)
那覇市保健所保健総務課(性感染症に関する相談)

HIV等に関する出前講座：那覇市保健所保健総務課

②10代の喫煙率(1カ月以内の喫煙)

③10代の飲酒率(1カ月以内の飲酒)

策定時には、アンケート調査を実施していますが、中間評価時にアンケート調査を実施しておりません。指標について、引き続き最終評価に備えて検討していきます。

思春期教室では、喫煙、飲酒による害や、胎児への影響について伝えています。また、家族の喫煙状況が子どもの喫煙に影響を与えるため、親子健康手帳交付窓口や乳幼児健診等で禁煙について啓発していく必要があります。

⑤12歳児一人平均う歯(むし歯)経験数

策定時より、数値は改善していますが、直近値は中間目標値には達していません。那覇市では、歯・口腔について相談できる乳幼児健診を実施しており、最終目標値達成に向けて、令和元年度より妊婦歯科健診、2歳児歯科健診を再開しています。幼少期からの継続した歯・口腔の健康づくりを実施しながら、効果的なむし歯予防の対策について検討していく必要があります。

指標の見直しと新しい指標

・「避妊方法、性感染症について学習したことがある者の割合」を「中学校、高校での思春期教室(避妊、性感染症の予防)の受講人数」に変更

(%)

指標 (★：重点指標)		策定時	H27 年度 2015	H28 年度 2016	H29 年度 2017	H30 年度 2018	中間 目標 値 2019	評 価	最 終 年 目 標 値 2024	把 握 方 法		
【健康水準の指標】	★①10代の人工妊娠中絶率 女子15～19歳の人口千対	那覇	9.8※ (H25年度)	—	—	—	—	減少	E	減少	衛生行政報告例	
		沖縄	7.6 (H25年度)	7.2	6.9	5.8	5.6					
		全国	6.6 (H25年度)	5.5	5.0	4.8	4.7					
【健康行動の指標】	★②10代の喫煙率 (1カ月以内の喫煙)	男	中1	0.0 (H26年度)	—	—	—	0.0%	E	0.0%	「健康な21」アンケート	
			高3	2.8 (H26年度)	—	—	—					—
		女	中1	0.4 (H26年度)	—	—	—					—
			高3	2.5 (H26年度)	—	—	—					—
	③10代の飲酒率 (1カ月以内の飲酒)	男	中3	1.7 (H26年度)	—	—	—	0.0%	E	0.0%	「健康な21」アンケート	
			高3	11.2 (H26年度)	—	—	—					—
		女	中3	4.3 (H26年度)	—	—	—					—
			高3	3.8 (H26年度)	—	—	—					—
	(中間評価で変更) ④避妊方法・性感 感染症について学習 したことがある	避妊方法	中3 男	52.2 (H26年度)	—	—	—	増加	E	—	「健康な21」アンケート	
			中3 女	52.5 (H26年度)	—	—	—					—
		性感 感染症	高3 男	82.2 (H26年度)	—	—	—					—
			高3 女	81.3 (H26年度)	—	—	—					—
(中間評価で変更) ④中学校、高校での思 春期教室(避妊、性感 感染症の予防)の受講人 数		—	—	—	—	8,503 31回	—	—	増加	・母子保健相談訪問指導事業 ・生涯を通じた女性の健康支援事業		
⑤12歳児一人平均う歯 (むし歯)経験数(本)		1.84 (H25年度)	1.57	1.45	1.35	1.26	1.0 未満	B	1.0 未満	学校教育課(学校保健統計調査報告書)		

A: 数値が改善し、中間目標値に達している指標、B: 数値は改善しているが、中間目標値に達していない、
C: ほぼ変化無し、D: 数値が悪化している、E: 評価できない

※那覇市内病院からの報告数で市外居住者も含まれる

(%)

指標 (★：重点指標)		策定時	H27 年度 2015	H28 年度 2016	H29 年度 2017	H30 年度 2018	中間 目標 値 2019	評 価	最 終 年 目 標 値 2024	把握 方法
【参考とする指標】	思春期に関する(親と子)教育回数 () は受講人数	15 回 (1,067) (H25 年度)	17 回 (2,713)	32 回 (7,337)	31 回 (5,891)	35 回 (8,775)	—	—	—	・母子保健相談訪問指導事業 ・生涯を通じた女性の健康支援事業 ・母子保健推進員活動
	近所の人との交流「お互いに助け合える関係」があると回答した割合	乳児	9.0 [全体:11.3] (H26 年度)	—	—	—	—	—	—	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート
		1歳半児	11.1 (H26 年度)	—	—	—	—	—	—	
		3歳児	13.7 (H26 年度)	—	—	—	—	—	—	

A: 数値が改善し、中間目標値に達している指標、B: 数値は改善しているが、中間目標値に達していない、C: ほぼ変化無し、D: 数値が悪化している、E: 評価できない

エ 基本目標4 親が心にゆとりを持ち子育てできる

①子どもを虐待していると思う親の割合

子どもを虐待していると思う親の割合について、策定時には、乳幼児健診会場でアンケート調査を実施していますが、国の健やか親子21（第2次）中間評価の指標名変更があり、国と同様に、「乳幼児期に体罰や暴言等によらない子育てをしている親の割合」に変更します。国は、「子どもを虐待していると思われる親の割合」から、乳幼児健診の必須問診項目で、子育て上の不適切な行動について尋ねる質問にいずれも該当しないという項目があり、それを「乳幼児期に体罰や暴言等によらない子育てをしている親の割合」として指標変更しています。

那覇市では、「子どもを虐待していると思う親の割合」について、中間評価で調査を実施していないため評価はできませんが、子育て応援課子育て支援室での虐待相談件数は年々増加傾向にあります。

虐待による子どもの死亡事例等の検証では、予期せぬ妊娠や親子健康手帳（母子健康手帳）の未申請、妊婦健診未受診等の事例が見受けられます。相談体制と産科医療機関をはじめとする各機関との連携を強化し、養育支援を必要とする家庭への支援の充実が必要です。

また、厚生労働省の作成したチラシ「体罰によらない育児」について周知していく必要があります。

②ゆさぶられ症候群を知っている親の割合

「ゆさぶられ症候群を知っている親の割合」は、策定時には、乳幼児健診会場でアンケート調査を実施していますが、平成 27 年度から乳児健診の問診項目に追加されており、今後は乳幼児健診報告書で数値を把握していきます。策定時と把握方法が違うため評価はできませんが、平成 27 年度と比べ、直近値はほぼ変化がありません。ゆさぶられ症候群について知らない保護者もいるため、引き続き、赤ちゃんの泣きの特徴と合わせて親子健康手帳交付窓口や保健師や助産師による訪問等で周知していく必要があります。

③子育てをサポートしてくれる人がいない親の割合

「子育てをサポートしてくれる人がいない親の割合」は、策定時より直近値は悪化しています。那覇市では、妊産婦や乳幼児のいる家庭を訪問し、身近な相談を行うボランティアとして母子保健推進員が活動しています。また、平成 30 年度、妊娠・出産・育児について気軽に相談できる子育て世代包括支援センター「ら・ら・らステーション」を開設しました。

今後は、母子保健推進員活動と連動した「ら・ら・らステーション」の周知と、子どもをもつ保護者が利用する機関と連携した事業展開をしていけるよう検討していく必要があります。

指標の見直しと新しい指標

- ・「子どもを虐待していると思う親の割合」を「乳幼児期に体罰や暴言等によらない子育てをしている親の割合」に変更
- ・「ゆさぶられ症候群を知っている親の割合」については、把握方法を乳幼児健診（健やか親子なは）アンケートから乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）に変更

【参考】

「子育て上の不適切な行動について尋ねる質問」

【乳児健診、1歳半健診】

- ①しつけのし過ぎがあった
- ②感情的に叩いた
- ③乳幼児だけを家に残して外出した
- ④長時間食事を与えなかった
- ⑤感情的な言葉で怒鳴った
- ⑥子どもの口をふさいだ
- ⑦子どもを激しく揺さぶった
- ⑧いずれも該当しない

【3歳児健診】

- ①しつけのし過ぎがあった
- ②感情的に叩いた
- ③乳幼児だけを家に残して外出した
- ④長時間食事を与えなかった
- ⑤感情的な言葉で怒鳴った
- ⑥いずれも該当しない

(%)

指標 (★：重点指標)		策定時	H27 年度 2015	H28 年度 2016	H29 年度 2017	H30 年度 2018	中間 目標 値 2019	評価	最終 目標 値 2024	把握 方法	
【健康水準の指標】	(中間評価で変更) ★①子どもを虐待していると思う親の割合	乳児	4.1 [全体：5.6] (H26年度)	—	—	—	—	減少	E	—	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート
		1歳半児	5.1 (H26年度)	—	—	—	—				
		3歳児	7.5 (H26年度)	—	—	—	—				
	(中間評価で変更) ★①乳幼児期に体罰や暴言等によらない子育てをしている親の割合	乳児	—	90.8	92.5	92.9	92.3	—	—	増加	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
		1歳半児	—	75.5	79.1	82.8	82.9				
		3歳児	—	60.3	59.5	63.0	65.3				
【健康行動の指標】	②ゆさぶられ症候群を知っている親の割合(乳児健診)	85.8 (H26年度)	—	—	—	—	—	増加	E	—	【策定時】乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート
	(中間評価で変更) ②ゆさぶられ症候群を知っている親の割合(乳児健診)	—	97.9	98.3	98.0	97.3	—	—	増加	—	H27年度から乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
【環境整備の指標】	③子育てをサポートしてくれる人がいない親の割合(乳児健診前期)	9.2 (H25年度)	8.7	9.8	8.8	9.7	—	減少	D	減少	【策定時】乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
【参考とする指標】	子育て支援室の児童虐待相談件数	235件 (H25年度) 171件 (H24年度) 128件 (H23年度)	217件	241件	249件	292件	—	—	—	—	【策定時】子育て応援課子育て支援室(家庭児童相談実施状況)
	こんにちは赤ちゃん訪問の件数と率(乳児家庭全戸訪問事業)	訪問件数 2,963 (H25年度) 実施率 85.1 (H25年度)	2,856	2,863	2,779	2,682	—	—	—	—	【策定時】子育て応援課

A: 数値が改善し、中間目標値に達している指標、B: 数値は改善しているが、中間目標値に達していない、C: ほぼ変化無し、D: 数値が悪化している、E: 評価できない

那覇市母子保健推進協議会委員名簿
 (任期：令和元年11月15日まで)

	代表区分	氏名	所属	
1	学識経験者	當山 裕子	琉球大学医学部保健学科 地域看護学	会長
2	関係団体 (小児科医)	具志 一男	沖縄県 小児科医会	副会長
3	関係団体 (産婦人科医)	渡嘉敷 みどり	沖縄県産婦人科医会	
4	関係団体 (歯科医)	大西 満	(社)南部地区歯科医師会	
5	関係団体 (小児神経科医)	城間 直秀	医療法人愛燦会	
6	関係行政機関	金城 房枝	沖縄県地域保健課母子保健班	
7	関係団体 (母子保健ボランティア)	松島 真理子	那覇市母子保健推進員協議会	
8	関係団体・市民 (子育て支援)	平良 博子	NPO 法人ファミリーサポート 愛さん会	
9	関係団体・市民 (子育て支援)	土屋 由美子	子育て応援キャラバン隊 はぐくみ	